

建築学科

1. 学習・教育目標

建築学は人と社会のインターフェイス技術として、身体的スケールから地球的スケールまであらゆる分野に跨る総合的な学問分野であることを理解し、社会のニーズを踏まえた上で課題解決と価値の創造の両立をめざす、広範かつ統合的な知の素養を身につける。本学科のカリキュラムは、建築という広範な学問領域を、建築理論 (Architectural Theory: AT)、構造工学 (Structural Engineering: SE)、都市環境 (Urban Environment: UE)、建築デザイン (Architectural Design: AD) という緩やかに連携する四つの分野として捉え、それらをバランスよく習得できるように形成されている。

- ・ AT分野: 歴史性・芸術性・伝統性あるいは人間・行動・利便性の観点から建築空間をとらえなおすことで、人間生活に深く関わる建築の概念を支える思想や計画の理論形成について習得する。
- ・ SE分野: 建物の安全性とそこに集い住まう人たちの生命と財産を守るために、建物の材料・構造・構法の基礎的な知識、理論を習得するとともに、力の作用を数値解析および実験により理解する。
- ・ UE分野: ヒト・構造物(建築)・エネルギー・各種環境要素(音・光・熱・空気・水等)・生態系の複合的なつながりを一つのシステムと捉え、人間社会と地球環境のバランスを考えた思考力、計画力、デザイン力を習得する。
- ・ AD分野: 建築のデザインが工学的知識から美学・哲学などの人文社会学の知識までが要求される包括的なものであることを理解し、そこから生まれるアイデアをもとに多面的な知識を統合し社会へつなげる構想力、表現能力を身につける。

これら四つの分野を三つのステップに構成することで、幅広い分野を横断的、総合的、有機的に学習していく。三つのステップとは、「建築への導入」期 (1年春学期～1年秋学期)、「建築への素養」期 (2年春学期～3年春学期)、「建築専門分野への萌芽と探求」期 (3年秋学期～4年秋学期) であり、基礎知識の習得から、その応用および専門領域における修学の深化へと展開する。

建築設計教育は、これら四つの分野と三つのステップに対応しつつ展開され、基礎的なプレゼンテーション能力や構成力を高める教育も並行して展開する。これにより芸術的、機能的、創造的かつ災害に強い快適な建築と都市をデザインする能力を身につけ、人々が生きるに相応しい街や社会を形成していくことに貢献できる人材を養成する。

2. 教育の流れ

1年秋学期から3年春学期にかけて建築理論、構造工学、都市環境の各分野の科目群をバランスよく段階的に習得しつつ、必修科目であるデザインスタジオⅠ、Ⅱ、Ⅲを通して、基礎的な設計製図能力を身につける。そうすることで、各分野で学んだ知識を統合しながら、課題発見能力、課題解決能力であるデザイン力を獲得していく。

また、建築設計教育と並行して、絵画・彫塑・基礎デザインや演習などを通して、基礎的な表現力や構成力、コミュニケーション能力を身につける。3年秋学期からは、建築理論、構造工学、都市環境、建築デザインという分野別の演習により専門分野への修学に深化する。

最終年次は学修の集大成として卒業論文または卒業設計のいずれかを選択して卒業研究に取り組む。すなわち、専門分野に関するテーマを選定して個別の研究または設計を行い、論文または設計作品の形で成果をまとめて発表する。優秀な論文および設計作品に対する表彰制度を設け、学外の各種競技に出展させる。

3. 履修登録単位数の上限

各学期での履修登録単位数の上限は、下記枠内の指定科目を除き、1年次は24単位、2年次以上は20単位とする。ただし、上限緩和措置適用者(履修登録しようとする学期の前学期のGPAが3.0以上の者)に対しては26単位とする。編入学の場合は入学時の春学期の上限は24単位、それ以降は該当する学年の上限単位数が適用される。

上限設定の対象とならない科目

デザインスタジオⅠ、デザインスタジオⅡ、デザインスタジオⅢ、建築史演習、絵画・彫塑・基礎デザインⅠ、絵画・彫塑・基礎デザインⅡ、絵画・彫塑・基礎デザインⅢ、絵画・彫塑・基礎デザインⅣ、建築構造解析Ⅰ・演習、建築構造解析Ⅱ・演習、建築構造解析Ⅲ・演習、建築構造・構法設計演習、地域環境計画演習、建築理論演習、建築デザインスタジオⅠ、建築デザインスタジオⅡ、建築インターンシップ、建築実践英語A、建築実践英語B、建築ゼミS、建築ゼミF、卒業研究S、卒業研究F、第3ターム開講科目、第6ターム開講科目

4. 早期卒業

3年春学期終了時点で卒業研究着手基準を満たし、かつ卒業に必要な科目のGPAが4.0以上の場合で、卒業研究による卒業審査に合格した者については卒業が認定される。この早期卒業を希望する学生は、2年次終了時点で予め教務・厚生委員に申請をおこない、履修指導を受けることが必要である。その上で、早期卒業のためには、3年春学期終了時に卒業研究のための学力と能力に関する審査をおこない、これに合格することが必要である。

5. 成績の扱い

卒業資格認定、早期卒業と飛び入学の際には、原則としてGPAを判定基準に用いるほか、GPTを判定の参考に用いる。

6. 大学院への飛び入学

早期卒業とは別に、2年次終了時の成績が極めて優秀な学生は、3年次に本学大学院の入学試験を受験して大学院に飛び入学することができる。ただし飛び入学の場合は学部卒業扱いにならないため、将来建築士受験を考える者にとっては不利となるので注意を要する。詳細は教務・厚生委員に相談すること。

7. 履修基準表

科目区分			卒業研究着手基準	卒業に必要な単位数	
全学教育科目	基礎科目	人文社会系	4	4(※1)	高度全学教育指定科目から4単位以上(※1)
		自然科学系	4	4(※1)	
	グローバル教育科目		-	選択(0以上)(※1)	
	イノベーション教育科目		-		
	外国語	英語科目	6	6	
		初修外国語科目	2	2(※2)	
		計	-	10(※3, ※4)	
	健康スポーツ科目		-	2単位まで算入可能	
計		20	30		
学部教育科目	学部共通科目	都市科学の基礎	3	3	建築学科の指定する英語関連科目を2単位以上(※5)
		グローバル・ローカル関連	-	2科目	
		リスク共生関連	-	2科目	
		イノベーション関連	-	2科目	
		ソーシャルプラクティス関連	-	選択(0以上)	
		計	-	14	
	基礎演習科目		3	3	
	専門基礎科目		10	12	
	専門科目	専門コア科目	必修	6	15
			選択必修	25(各分野4単位以上)	25(各分野4単位以上)
		専門関連科目	-	4	
計		58	63		
計		-	94(※5)		
計		110	124		

(※1) 高度全学教育指定科目として、3年次以降に、本学科が指定した基礎科目、グローバル教育科目及びイノベーション教育科目の中から4単位以上を履修すること。

(※2) 初修外国語科目は、同一の言語で「実習1」と「実習2」をセット(1セット2単位)で履修しなければ、卒業に必要な外国語の単位に参入されない。詳しくは、全学教育科目の履修案内を参照すること。

(※3) 外国人留学生は、日本語科目を外国語科目に代替できる。詳しくは、全学教育科目の履修案内を参照すること。

(※4) 外国語科目計10単位のうち2単位までは、学科の指定するグローバル教育科目(国際交流科目)の中から2単位まで算入できる。ただし、この算入する2単位は、卒業に必要な英語科目の6単位、初修外国語科目2単位には含まれない。

(※5) 学部教育科目のうち2単位以上は、建築学科の指定する英語関連科目を修得すること(12ページを参照)。

8. 卒業の要件

- (1) 4年以上在学し、全学教育科目 30 単位以上、学部教育科目から 94 単位以上、合計 124 単位以上を修得し、卒業に関わる授業科目のGPAが 2.0 以上であり、かつ、卒業審査に合格すること。
卒業に関わる授業科目のGPAの対象としない科目は、入学前既修得単位として認定された科目、他大学開講科目で単位認定された科目、交換留学(派遣)による認定科目、「合格」「不合格」で評価される科目である。
- (2) 全学教育科目は、人文社会系基礎科目 4 単位以上、自然科学系基礎科目 4 単位以上、英語 6 単位以上と初修外国語 2 単位以上を含む外国語 10 単位以上(ただし、YGEP-N1 においては、外国語は日本語で代替することができる)を修得し、合計 30 単位以上修得すること。
- (3) 高度全学教育指定科目として学科が指定した基礎科目、グローバル教育科目及びイノベーション教育科目の中から合計4 単位以上を 3 年次あるいは 4 年次に修得すること。
- (4) 学部教育科目は、以下の a) ~ f) までの条件を満たし 94 単位以上を修得すること。
 - a) 学部教育科目のうち 2 単位以上は、学科が指定する英語関連科目を修得すること。
 - ・ 「Prospects of Arch, Infstr & Ecosystem Sci」は、全学教育科目としても開講されているが、建築学科の学生は「専門関連科目」として修得する。
 - b) 学部共通科目(基幹知科目)は、都市科学の基礎 3 科目 3 単位、グローバル・ローカル関連科目 2 科目以上、リスク共生関連科目 2 科目以上、イノベーション関連科目 2 科目以上、ソーシャルプラクティス関連科目 0 単位以上を含む、合計 14 単位以上を修得すること。
 - c) 「建築学概論・演習」3 単位を修得すること。
 - d) 専門基礎科目では、「解析学Ⅰ」、「解析学Ⅱ」、「線形代数学Ⅰ」、「線形代数学Ⅱ」、「微分方程式Ⅰ」、「図学Ⅰ」、「図学Ⅱ」、「関数論」、「確率・統計」の中から 10 単位以上を含む、12 単位以上を修得すること。
 - e) 専門科目は、専門コア科目から必修科目 15 単位、選択必修科目 25 単位以上を含み、専門関連科目から 4 単位以上を含む、合計 63 単位以上を修得すること。
 - f) 専門コア科目の選択必修科目は、以下に示す建築理論(AT)分野、構造工学(SE)分野、都市環境(UE)分野、建築デザイン(AD)分野からそれぞれ 4 単位以上を含む 25 単位以上を修得すること。
 - ・ 建築理論(AT)分野:「西洋建築史Ⅰ、Ⅱ」「人間生活と建築計画Ⅰ、Ⅱ」「公共施設の計画 A、B」「近代建築史 A、B」「日本建築史Ⅰ、Ⅱ」「建築史演習」から 4 単位以上
 - ・ 構造工学(SE)分野:「建築構法Ⅰ、Ⅱ」「建築構造解析Ⅰ・演習」「建築構造解析Ⅱ・演習」「建築構造計画と構造デザインⅠ、Ⅱ」「鉄筋コンクリート構造・演習」「鉄骨構造・演習」「建築材料」「建築材料・構造実験」「建築生産Ⅰ、Ⅱ」から 4 単位以上
 - ・ 都市環境(UE)分野:「建築環境計画Ⅰ、Ⅱ」「都市と都市計画Ⅰ、Ⅱ」「建築熱・空気環境Ⅰ、Ⅱ」「都市環境リスク共生論 B」「都市計画とまちづくりⅠ、Ⅱ」「建築音・光環境 A、B」「都市環境設備計画Ⅰ、Ⅱ」「設備計画Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」「建築法規Ⅰ、Ⅱ」から 4 単位以上
 - ・ 建築デザイン(AD)分野:「絵画・彫塑・基礎デザインⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」「身体と空間のデザイン」「ランドスケープ論」「建築コンピュータデザイン」から 4 単位以上

履修基準及び卒業の要件に関する注意:

- (i) 卒業研究には、卒業論文と卒業設計があり、いずれか1つを選択する。
- (ii) 初修外国語科目は、同一の言語で「実習1」と「実習2」をセット(1セット2単位)で履修しなければ、卒業に必要な外国語の単位に参入されない。なお、個別成績表の「修得単位・科目数」の集計ではそれが反映されていないので注意すること。例えば「ドイツ語実習1」と「フランス語実習1」のみ修得している場合は、セットではないので卒業の要件を満たさないが、個別成績表では「初修外国語 2単位」と表記されるために要件を満たしていると勘違いしやすい。
- (iii) 本学他学部の科目の履修を希望する場合は、教務・厚生委員へ相談すること。
- (iv) 放送大学の科目は、全学教育科目として2単位まで卒業に必要な単位に算入される。
- (v) 編入学など途中から入学する学生に対しては、編入される学年次の学生と同じ扱いを原則とする。

9. 卒業研究着手基準

- (1) 全学教育科目20単位以上（英語科目を6単位以上、初修外国語科目を2単位以上含む）、専門基礎科目の選択必修科目10単位以上を取得していること。なお、全学教育科目の基礎科目は、卒業に必要な科目区分ごとの最低履修単位の条件を満たしていること。
- (2) デザインスタジオⅠ、デザインスタジオⅡの単位を修得していること。
- (3) 専門科目から58単位以上を修得していること。このうち専門コア科目の選択必修は、前述の「8. 卒業の要件 (4f)」に示した内容通り25単位以上修得していること。
- (4) 上記(1)～(3)の科目を含めて合計110単位以上を修得していること。

卒業研究着手基準を満たす者は4年次の初めに審査の上発表する。なお、卒業研究のうち卒業設計を履修する者は、3年秋学期の建築デザインスタジオⅠに合格できる能力・知識・技術を有すること、および4年春学期の建築デザインスタジオⅡの単位を修得することが必要である。

10. 履修年次

学部共通科目のなかには、建築学科の学生にとって望ましい履修年次を示している次の科目がある。いずれも2年次から履修可能であるが、専門性が高いので、「社会デザイン・フューチャーセッション」は3年次の履修、「建築芸術史論 A・B」は4年次の履修が望ましい。

11. 建築士試験の受験資格の要件

建築士（一級建築士、二級建築士、木造建築士）試験を受験するには、本学科において、指定科目を修めて卒業することが条件となる。この指定科目は、卒業に必要な科目と一致しないので注意すること。指定科目の一覧は、オリエンテーションにて配布する。詳細は、建築技術教育普及センターのウェブサイトを参照すること。

授業科目一覧

科目区分	授業科目の名称	配当年次	セメスター /ターム (※)	単位数			備考	
				必修	選択必修	選択		
【学部教育科目】								
基礎演習科目	建築学概論・演習	1	春	3				
学部共通科目	9 ページを参照							
専門基礎科目	解析学Ⅰ	1	春		2		「解析学Ⅰ」、「解析学Ⅱ」、「線形代数学Ⅰ」、「線形代数学Ⅱ」、「図学Ⅰ」、「図学Ⅱ」、「微分方程式Ⅰ」、「関数論」、「確率・統計」から10単位以上を含む12単位以上を修得すること。	
	線形代数学Ⅰ	1	春		2			
	図学Ⅰ	1	春		2			
	物理学ⅠA	1	春			2		
	解析学Ⅱ	1	秋		2			
	線形代数学Ⅱ	1	秋		2			
	図学Ⅱ	1	秋		2			
	物理学ⅠB	1	秋			2		
	微分方程式Ⅰ	1	秋		2			
	関数論	2	春		2			
	微分方程式Ⅱ	2	秋			2		
	確率・統計	3	秋		2			
	溶接工学概論	3	秋			2		
	安全工学概論	4	春			2		
専門科目	建築理論(AT)分野	西洋建築史Ⅰ	2	①		1	必修科目15単位を修得すること。	
		西洋建築史Ⅱ	2	②		1		
		日本建築史Ⅰ	2	④		1		
		日本建築史Ⅱ	2	⑤		1		
		人間生活と建築計画Ⅰ	2	④		1		選択必修科目は、建築理論(AT)分野、構造工学(SE)分野、都市環境(UE)分野、建築デザイン(AD)分野からそれぞれ4単位以上を含む25単位以上を修得すること。
		人間生活と建築計画Ⅱ	2	⑤		1		
		建築史演習	2	⑥		2		
		近代建築史A	3	①		1		
		近代建築史B	3	②		1		
		公共施設の計画A	3	①		1		
	公共施設の計画B	3	②		1			
	構造工学(SE)分野	建築構法Ⅰ	1	④		1	選択必修科目は、建築理論(AT)分野、構造工学(SE)分野、都市環境(UE)分野、建築デザイン(AD)分野からそれぞれ4単位以上を含む25単位以上を修得すること。	
		建築構法Ⅱ	1	⑤		1		
		建築構造解析Ⅰ・演習	1	秋		3		
		建築構造解析Ⅱ・演習	2	春		3		
		建築構造計画と構造デザインⅠ	2	①		1		
		建築構造計画と構造デザインⅡ	2	②		1		
		鉄筋コンクリート構造・演習	2	秋		3		
		鉄骨構造・演習	3	春		3		
		建築材料	3	春		2		
建築材料・構造実験		3	春		3			
建築生産Ⅰ	3	④		1				
建築生産Ⅱ	3	⑤		1				

*配当年次、開講タームは変更される可能性もあるため、年度ごとに配布する時間割表を必ず確認すること。

(※)春=春セメスター、秋=秋セメスター、丸数字=各タームを表す。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	セメスター /ターム (※)	単位数			備考
				必修	選択必修	選択	
専門科目	都市環境(U・E)分野	建築環境計画Ⅰ	2	①		1	必修科目 15 単 位を修得するこ と。 選択必修科目 は、建築理論 (AT)分野、構造 工学(SE)分野、 都市環境(UE)分 野、建築デザイン (AD)分野からそ れぞれ4単位以上 を含む 25 単位以 上を修得すること。
		建築環境計画Ⅱ	2	②		1	
		都市と都市計画Ⅰ	2	④		1	
		都市と都市計画Ⅱ	2	⑤		1	
		建築熱・空気環境Ⅰ	2	④		1	
		建築熱・空気環境Ⅱ	2	⑤		1	
		都市環境リスク共生論B	2	⑤		1	
		都市計画とまちづくりⅠ	3	①		1	
		都市計画とまちづくりⅡ	3	②		1	
		建築音・光環境A	3	①		1	
		建築音・光環境B	3	②		1	
		都市環境設備計画Ⅰ	3	①		1	
		都市環境設備計画Ⅱ	3	②		1	
		設備計画Ⅰ	3	①		1	
		設備計画Ⅱ	3	②		1	
		設備計画Ⅲ	3	④		1	
		設備計画Ⅳ	3	⑤		1	
		建築法規Ⅰ	3	④		1	
	建築法規Ⅱ	3	⑤		1		
	建築デザイン(A・D)分野	絵画・彫塑・基礎デザインⅠ	1	①		1	
		絵画・彫塑・基礎デザインⅡ	1	②		1	
		絵画・彫塑・基礎デザインⅢ	1	④		1	
		絵画・彫塑・基礎デザインⅣ	1	秋		1	
		身体と空間のデザイン	1	秋		3	
		ランドスケープ論	2	③		2	
		建築コンピュータデザイン	3	③		2	
		デザインスタジオⅠ	2	春	3		
		フィールドワーク論・演習Ⅰ	2	①		1	
		フィールドワーク論・演習Ⅱ	2	②		1	
		デザインスタジオⅡ	2	秋	3		
		建築・都市環境工学演習	2	秋		3	
		デザインスタジオⅢ	3	春	4		
		建築インターシップ	3	⑥		2	
		建築構造・構法設計演習 *1	3	秋		4	
		建築理論演習 *1	3	秋		4	
		地域環境計画演習 *1	3	秋		4	
建築デザインスタジオⅠ *1		3	秋		4		
建築デザインスタジオⅡ	4	春		4			
建築構造解析Ⅲ・演習	4	春		2			
建築デザイン論	4	①		1			

*配当年次、開講タームは変更される可能性もあるため、年度ごとに配布する時間割表を必ず確認すること。

(※)春=春セメスター、秋=秋セメスター、丸数字=各タームを表す。

*1 「建築構造・構法設計演習」「建築理論演習」「地域環境計画演習」「建築デザインスタジオⅠ」は、どれかひとつしか履修できない。

科目区分	授業科目の名称	配当年次	セメスター /ターム (※)	単位数			備考
				必修	選択必修	選択	
専門科目 コア	建築ゼミS *2	4	春		4		専門関連科目から4単位以上を 修得すること。
	建築ゼミF *2	4	秋		4		
	卒業研究S *2	4	春	5			
	卒業研究F *2	4	秋	5			
	環境法Ⅰ	2	①		1		
	環境法Ⅱ	2	④		1		
	空間文化論講義	3	秋		2		
	特別講義-建設技術の最新動向と社会貢献	3	秋		2		
	建設の国際プロジェクト・マネジメントⅠ	3	④		1		
	建設の国際プロジェクト・マネジメントⅡ	3	⑤		1		
	現代芸術論講義	3	春		2		
	現代都市文化論講義	3	秋		2		
	建築プレゼンテーション	3	春		2		
	里地と山地の生態学Ⅰ	2	④		1		
	里地と山地の生態学Ⅱ	2	⑤		1		
	資源循環・廃棄物学Ⅰ	3	①		1		
	資源循環・廃棄物学Ⅱ	3	②		1		
	構造動力学Ⅰ	3	①		1		
	構造動力学Ⅱ	3	②		1		
	土質力学Ⅱ	2	①		1		
	都市・地域経済学Ⅰ	2	①		1		
	都市・地域経済学Ⅱ	2	②		1		
	都市下水工学	3	⑤		1		
	都市交通計画	3	①		1		
	都市上水工学	3	④		1		
	都市文芸文化論演習Ⅰ	4	④		1		
	都市文芸文化論演習Ⅱ	4	⑤		1		
	都市リスクの空間分析とマネジメントB	2・3	②		1		
水理学Ⅱ	2	②		1			
文化人類学講義	2	秋		2			
メンテナンス工学Ⅰ	3	④		1			
メンテナンス工学Ⅱ	3	⑤		1			
Prospects of Arch, Infstr & Ecosystem Sci	2・3	春		2		英語	
建築実践英語A	3・4	④		1		隔年(奇数年)	
建築実践英語B	3・4	④		1		隔年(偶数年)	

*2 「建築ゼミS」と「建築ゼミF」はいずれかひとつ、「卒業研究S」と「卒業研究F」はいずれかひとつしか履修できない。また、「建築ゼミS」と「卒業研究S」、「建築ゼミF」と「卒業研究F」は同時に履修できない。

